

JR東海労なごや

2012年9月13日 No.923
JR東海労名古屋地方本部
発行者：山田哲也
編集者：堀部肇

山間線区の利用者はリニア建設のために切り捨てられるのか？

今年、第1四半期は過去最高の利益を上げながらも
駅の無人化を進めるJR東海会社！
いま日本社会に必要とされているのはリニアによる
経済効果よりも地域の過疎化を止めることではないのか。

JR東海名古屋エリアの山間線区では

中央線（中津川～洗馬）	20駅中、直営は2駅、
高山線（美濃太田～杉原）	28駅中、直営は3駅、
飯田線（豊川～宮木）	88駅中、直営は5駅、

これら3線区の山間部では136駅中、直営駅は10駅しかありません。なんと1割にも満たないのが現状です。これでは、駅と地域はさびれて行くばかりです。これでは、JR東海はとても地域に貢献しているとは思えません。

駅無人化がもたらす弊害を考えよう。

駅が無人化になり、利用するお客様への案内、乗車券、特急券、指定席券、定期券、企画キップ、各種割引券など出来なくなり、さらに一部のキップは車内でも購入できず不便を与えることとなります。

そして車掌は車内での案内、発売業務が増え、運転士はワンマン列車内での放送・案内、精算業務等が発生します。列車の遅れ、運転に集中できない事態が発生する事になり、安全にも問題も発生することが懸念されています。

私たちは、夢のリニアより、まず駅の無人化で利用するお客様の生活と乗務員への大きな犠牲が強要されることに反対です。